



先生に叱られ 息子が登校嫌がる

小学3年の息子が時折、「学校に行きたくない」と言います。担任の先生と相性がよくないようです。以前ふざけたり冗談を言ったりした際、予想したよりも厳しく注意されたことを気にしているようです。先生がクラスの全員を叱った時にも、「自分のことだけを怒っている」と言っていました。

息子は私が叱ると「僕なんていない方がいいんですよ」とよく言い、繊細過ぎる性格なのかとも思います。親としてどう向き合いますか。学校にはどのような配慮をお願いすればいいでしょうか。

先生、教えて!

子育て・教育相談コーナー



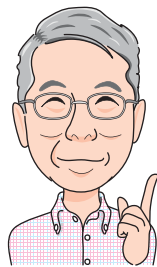
仙台市若林区

40代・主婦

からの質問

●回答してくれた人

本間 博彰さん



ほんま・ひろあき 静岡市出身。医学博士。宮城県子ども総合センター所長などを歴任。東日本大震災後は被災地の子どもたちのケアにも従事。2018年から星総合病院(郡山市)精神科部長。

このコーナーは保護者からの子育てや教育についての相談を募集しています。元教員や学習塾経営者、小児科医、精神科医らが、紙面上で悩みにお答えします。メールまたは郵送で相談をお寄せください。

▷記入事項 氏名、年齢、職業、住所、家族構成、電話番号、メールアドレス

▷宛先 〒980-8660 河北新報社子ども新聞係。メールアドレス kyopro@po.kahoku.co.jp

お子さんは叱られたことが引っかけ、先生との関係を気にし登校したがないように思います。「僕なんていない方が」と言うのも先生に抱いた複雑な気持ちの表れかもしれません。相性の問題で片付けず、注意されてどんな気持ちになったか、先生をどう思ったか、注意されたことを今はどう思うか、聞いてみるのが大切と考えます。

担任は親の次に影響力があります。子どもは学校生活の各場面で「優しい」「分かってくれる」「怖い」などと万華鏡のように多様な思いを抱きます。注意されどう思ったでしょうか。

小学校高学年になると、担任を通して人との関係の在り方に関心を向けるようになります。

適切な気付き 後押しを

大人への批判力も少しずつ育って思春期に入っていきます。

この子の場合、注意された衝撃が大きく「嫌われている」と一方的に思い込んでいるのかも。注意された理由や注意されるに至った文脈、先生の態度などから伝えようとした意味や意図を把握するところを、注意された驚きでちゃんと認識できずもやもやしたままなのでしょう。

適切に認識できるようになるには時間を要しますが、自分なりに手掛かりを得て進めるようになるでしょう。頭の中の拙いレベルの認識を少しずつ言葉にし自分の認識を深めていく作業が必要で、親は批判や指導を挟まず聞くこと。いっぱい話せるよう関わってあげてください。